

情報処理2 第3回

TEX (3)

かつらだ まさし
桂田 祐史

2013年5月1日

この授業用の WWW ページは <http://www.math.meiji.ac.jp/~mk/syori2-2013/>

今年度前期の水曜は 15 回フルにあって、時間的な余裕は十分のようなので、あわてて先に進まないことにして、今日も TEX の練習をします。

1 連絡事項

- この辺は、「問題を解く」ではなく、自分で実行してもらうことが主体なので、介護実習などで授業に来られない人が、後から (締切を過ぎてから) 提出することを認めます。
- 次回は、(仮称) 十進 BASIC によるプログラミングをする予定です。

2 レポート課題3

基本的に前回と同じです。講義で説明する TEX の機能をなるべく自分でも試してもらって、出来たところまでを提出してもらいます。全部の機能を試す必要はありませんが、以下の二点を試してレポートに含めることは必要条件とします。

1. `\section{}` を使って複数の section (節) を作る。
2. `\tableofcontents` を使って目次を作る。

(今後提出してもらうレポートを適当な section から構成してもらいたいため。)

作業の流れは

1. 作成してある `tamago.tex` を秀丸で読み込んで、`kadai3.tex` という別名で保存します。
2. 講義を聴きながら、可能な限り自分でも試してみます。
(`kadai3.tex` に書き込んで、`platex` で処理し、`dviout` で画面表示する。)

コマンド・プロンプトの中で以下を実行

```
platex kadai3.tex   これは何度か実行することになる
dviout kadai3.dvi  これは一度起動すれば良い
```

3. 14:20 以降、kadai3.dvi が表示可能なタイミングで (14:20 が近づいたら、あまり複雑なことにチャレンジしない方が良くも…)、PDF ファイル kadai3.pdf を作成します。

コマンド・プロンプトの中で以下を実行

```
dvipdfmx kadai3.dvi
```

4. Oh-o! Meiji システムを利用して、kadai3.pdf を課題3のレポートとして提出します。
5. 万一 Oh-o! Meiji システムが使えない場合には、前回までと同様に、メールで提出して下さい (やり方はもう書きません)。

締切は本日 5月1日 (水) 18:00 とします (原則この授業時間内に提出してもらいますが、何か問題があったときのために 18:00 としておきます)。

3 本日の学習内容

1. L^AT_EX 文書 .tex の書き方 — 入門 (前回から補足した部分)¹
2. 簡単な数式 (続き)²
3. 文書の構造など (今回のレポートの必要条件)³
4. T_EX のマクロ機能、パッケージ機能の紹介⁴

参考文献

- [1] 奥村晴彦, L^AT_EX 2_ε 美文書作成入門 改訂第5版, 技術評論社 (2010).
- [2] 日本語 T_EX 情報, <http://oku.edu.mie-u.ac.jp/~okumura/texfaq/>

¹<http://www.math.meiji.ac.jp/~mk/labo/text/tex/node23.html>

²<http://www.math.meiji.ac.jp/~mk/labo/text/tex/node36.html>

³<http://www.math.meiji.ac.jp/~mk/labo/text/tex/node46.html>

⁴<http://www.math.meiji.ac.jp/~mk/labo/text/tex/node53.html>